

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	【上位目標】 ミンダナオ島ピキット・マリダガオ河沿い地域において、紛争被害に遭った子どもたちの初中等教育環境を向上させ、草の根レベルでの平和を定着させること。 (達成度とその理由：90%達成) ソフトコンポーネントによる「平和の学校」の研修が概ね順調に実施され、学校では平和教育授業案が活用されたり、平和をテーマにした課外活動が行われたりするようになった。また、これまでの「平和の学校」が集まり、「合同平和キャンプ」が自主的に行われるなど、地域での平和活動が活性化していることが見受けられる。 ハードコンポーネントでは、整えられた6教室で学ぶ270名の小学生の教育環境が向上した。申請時の目標は300名であった一方、教室の完成が、学校の年度の終盤となったため、目標を一割下回った。そのため、現時点での達成後を90%とした。これは新学期(6月)に入ると児童数が増加し、目標を上回ると見られている。
(2) 事業内容	【ハードコンポーネント】 (ア) マリク・メモリアル小学校新築1棟2教室の建築と備品整備 (イ) ナブダス小学校新築1棟2教室の建築と備品整備 (ウ) ゴコタン小学校新築1棟2教室の建築と備品整備 活動内容 上記、小学校3校6教室の新築、及びその教室の椅子や机、黒板等の備品整備を行った。活動は、申請書の通りに順調に進められた。 【ソフトコンポーネント】 (エ) 「平和の学校」(SOP:School of Peace) 研修 (オ) 「ミンダナオ子ども議会」の開催 活動内容 以下、ソフトコンポーネントの2つの活動に関しても、予定通り、順調に進められた。 (エ) 「平和の学校」(SOP:School of Peace) 研修 ー小中学生対象： 「平和の学校」の概念や「紛争解決法」等に関する研修を、小中学生347名に計16回実施し、延べ597名が参加した。 ー教師対象： 「平和の文化」や「紛争を経験した子どもへの心のケア」等に関する研修を、教師70名に計7回実施し、延べ200名が参加した。 ー地域リーダー対象： 「地域が抱える争いの解決方法」等に関する研修を、地域リーダー24名に計2回実施し、延べ54名が参加した。 ー子ども、教師、地域全体を対象： 「平和の学校」宣言式を開催し、子ども、教師、地域住民約800名(招待者名簿に基づく数値)が参加した。 (オ) 「ミンダナオ子ども議会」の開催 ミンダナオ各地の生活や文化の違い、地域の課題について話し合う「ミンダナオ子ども議会」を開催し、ミンダナオ島の10の異なる

	先住民の子ども 33 名及び教師等引率者 10 名が参加した。
(3) 達成された成果	【成果 1】 マリク・メモリアル小学校、ナブンドス小学校、ゴコタン小学校の約 300 名の子どもたちの教育環境が整えられている。 (指標 1) 事業終了時、同校の 300 名以上の子どもたちが、教育省基準に従った教室で、自分の机と椅子を使用し、学ぶことができている。 (達成度とその理由) <u>90%達成</u> 申請時、これらの 3 校では教室数の不足により、子どもたちは、竹でできた小屋やステージ、老朽化し浸水する教室等で学んでいた。そのため、雨が降るたびに授業の中断が起これ、子どもたちが途中で通学を止めるケースが相次いでいた。しかし、コンクリート製 6 教室の新築と備品の整備により、270 名の子どもたちが、天候にかかわらず所定の授業を行うことができるようになった。(達成度 90% の理由は、上位目標の達成度と同じ。) 児童数は、マリク・メモリアル小学校で 400 名から 497 名に、ナブンドス小学校で 317 名から 400 名に、ゴコタン小学校で 510 名から 633 名に増加し、教師数は、3 校に 27 名いた教師が、事業終了時には、32 名に増加した。同校では、教育省予算による校舎整備も行われるようになり、今後も、教育省による教室整備が進むことで、就学児童数は増加していくことが見込まれる。 【成果 2】 バルングス村、ナブンドス村、ゴコタン村にある小学校と中学校が、「平和の学校」宣言を行っている。 (指標 2) 同校に置いて、宣言式が行われ、且つ教育省から「平和の学校」証明書が発行されている。 (達成度とその理由) <u>100%達成</u> 2014 年 12 月 18 日に、ナブンドス小学校を会場に、対象の 7 校合同で「平和の学校」宣言式が行われ、国際停戦監視団(IMT)代表、日本大使館代表、教育省第 12 地区事務所代表、教育省コタバト事務所代表、MILF 代表 (バンサモロ開発庁および Bangsamoro Transition Commission 代表)、ピキット町長、対象 7 ケ村の村長等の来賓を前に宣言文への署名が行われた。また、教育省よりこの 7 校に対し「平和の学校」認定書が発行された。 【成果 3】 300 名以上が暴力に頼らない争いの回避方法を知っている。 (指標 3) 研修終了時のアセスメントシートにおいて、300 名以上が暴力に頼らない争いの回避方法を回答している。 (達成度とその理由) <u>100%達成</u> 研修終了時のアセスメントにおいて、436 名が具体的に、暴力に頼らない争いの回避方法を回答した。教師からは、「校内に銃を落ち込む児童がなくなった」、「児童間の争いやいじめが減り、学校全体の教育環境が改善した」といった児童や地域の変化について報告があった。

	【成果 4】 30 名以上の子どもが、ミンダナオのビジョンを表現し、それに向かって取り組む用意が出来ている。 (指標 4) 30 名以上の子どもたちが、「ミンダナオ子ども議会」の中で将来のミンダナオの姿について発表し、具体的な行動計画をつくる事ができている。 (達成度とその理由) <u>100%達成</u> ミンダナオ各地から集まった 10 の民族から成る 33 名の子どもたちが、「ミンダナオ子ども議会」において、各地域が抱えている様々な課題と理想のミンダナオ像に対して話し合った。この分かち合いより子どもたちは、ミンダナオには多様な民族がいて、それぞれの文化や生活を大切にしていることを深く理解することができた。また異なる民族でも同じ課題を抱え、将来に向けた夢を目指していることを理解し合えたことで、共にミンダナオの平和に向かって行動する思いを共有し、これに向けて自分たちが行動していく必要性を確認し合った。最後にこの理解を基に、自分たちの地域での課題に対処する具体的な行動計画をまとめ、発表した。
(4) 持続発展性	【ハード面】 本事業のフェーズ 1 及び 2 と同様に、教室や備品の維持管理は、当法人と教育省および対象 3 校の間で取り交わされた「引渡し協定書 (Deed of Donation)」に基づき、教育省と学校が予算措置を行う。使用状況については、当法人が事業終了 5 年間にわたりモニタリングを行う。 【ソフト面】 各学校の「年間活動計画書 (Annual Implementation Plan)」には、「新任教師に対する平和教育オリエンテーションの実施」、「平和教育授業案の活用」、「教室内での平和コーナーの設置」、「平和キャンプの実施」、「学校や地域の抱える課題についての村や PTA との定期的な話し合い」等の「平和の学校」としての学校活動が盛り込まれた。この「年間活動計画書」は、教育省が学校活動の評価やモニタリングに活用する文書であり、教育省による学校への予算配分を行うための文書でもある。本事業で生まれた「平和の学校」の活動は、このような仕組みで持続性が担保されることが期待されている。 尚、フェーズ 1 と 2 で「平和の学校」となった学校においては、フェーズ 3 実施中の今年度には、以下の活動を独自に展開しており、その波及効果を見ることができる。 －PTA との間で「学校内に銃を持ち込ませない」方針を確認 －平和の概念を盛り込んだ授業の実施 －ラマダン（断食月）に平和に関するジンポジウムを実施 －先生と生徒を対象に平和教育のオリエンテーション実施 －課外活動グループ Peace Club のメンバーのリーダーの選出 －校長室に対話のための平和のテーブルを設置 申請団体は、研修の効果について事業終了後 5 年間はモニタリングを行うとともに、随時フォローアップしていく。